

スティーヴン・キングを中心としたアメリカのモダン・ホラーに見る文化と精神性
～日本のホラー小説と比較して～ 概要

本論文はアメリカにおけるホラー小説に焦点を絞って、そこから見えるアメリカの文化や精神性を考察するものである。

ホラー小説は日本では敬遠されがちな反面、本場アメリカでは日本よりもずっと大衆文学として根付いている。これに一役買ったのがスティーヴン・キングを筆頭とするモダン・ホラーの隆盛であり、日本もこの影響を受けて 1993 年を境にこのムーブメントに着手している。序論ではそのような日本での受け入れられ方やホラー小説という文学的な特性を紹介していく。

第一章ではホラー小説の歴史的な変遷を概観し、時代背景や流行などがどのようにホラー小説や人々の恐怖のインスピレーションに影響を及ぼしてきたのか、そして現在の形に辿り付くまでにどのような道のりを歩んできたのかを見ていく。具体的には、ホラー小説の鼻祖である 18 世紀半ばのイギリスのゴシック・ロマンス誕生の時代から 20 世紀初頭の英国のモダン・ホラーの三大巨匠ことアーサー・マッケン、アルジャノン・ブラックウッド、M・R・ジェイムズの登場、及び 20 世紀前半アメリカの H・P・ラヴクラフトの登場から 20 世紀後半のスティーヴン・キングの台頭によるモダン・ホラーの興隆を概観していく。

続く第二章ではアメリカのモダン・ホラーが一つのエンターテインメントとなって人々に受け入れられる中でも、特に人気の高いベストセラー作家であるスティーヴン・キング、ディーン・R・クーンツ、ロバート・R・マキャモンの三名の作品を中心に、なぜ彼らの作品が広く親しまれるのかを考察する。その際に彼らの生い立ちや作品の傾向などを取り上げて、アメリカのホラー小説の現在を探る。

そして第三章ではアメリカのホラー小説をより明確に理解するための比較材料として、日本のホラー小説を取り上げる。日本における怪談や妖怪などの独自のホラー文化やホラー小説誕生からの歴史的な変遷を辿り、現在の日本のホラー小説の動向を探り、アメリカとの違いを露にしていく。その際の比較材料としては呪いの考え方の違いや幽霊の性別の違い、動物怪に見られる違いなどの様々な点を指摘して考察する。

結論においては、これらの比較研究から浮かびあがるアメリカの文化と精神性について論じ、本論文の締めとする。